

ボッシュ、テクノロジーリーダーとしての強みを発揮 「戦略 2030」：意欲的な目標のもと引き続き前進

2025 年 5 月 8 日
PI11955 RB Ka/af

- ▶ 2024 年度：売上高 903 億ユーロ、支払金利前税引前利益率 3.5%、先行投資約 130 億ユーロ
- ▶ 2025 年度の展望：主要市場は停滞、目標：売上高および支払金利前税引前利益率の向上、前年度水準のフリーキャッシュフローの達成
- ▶ 技術進歩の促進、技術革新力の強化：スタートアップ企業向けの新ベンチャーキャピタルに 2 億 5,000 万ユーロを出資
- ▶ ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会会長シュテファン・ハルトウング：「ボッシュは、戦略 2030 の下で世界的な激動の時代に方向性を示す意欲的な目標を掲げています」
- ▶ ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会メンバー マルクス・フォーシュナー：「ボッシュは、不確実な時代でも早期に行動を起こすことで、財務的な余裕を確保しています」

シュトゥットガルト／レニンゲン（ドイツ） - ボッシュ・グループの 2024 年の売上高は、前年比 1.4% 減の 903 億ユーロで、為替調整後は 0.5% 減となりました。支払金利前税引前利益（EBIT）は 31 億ユーロ（2023 年：48 億ユーロ）、支払金利前税引前利益率は 3.5% でした。昨年は、市場環境が成長の大きな足かせとなりましたが、競争力強化のために意欲的な「戦略 2030」を継続しています。ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会会長の [シュテファン・ハルトウング](#) は、年次決算発表の場で次のように述べました。「2024 年度は、コスト、構造、製品ポートフォリオの観点から重要な改善を成し遂げました。今後さらに成長を続け、財務上の独立性を強化するために、意欲的な目標を継続しています。特にグローバル市場が混乱している時代において、戦略 2030 は遅くとも 5 年後には中核市場でトップ 3 のプロバイダーになるために必要な方向性を示しています。」

この企業戦略は財務目標にも反映されており、通常のインフレ率を 2～3% とした場合、2030 年まで平均年間成長率 6～8% を達成することを目指しています。2025 年第 1 四半期の売上高は、ユーロおよび為替調整後ともに前年同期比

で4%増となっています。ボッシュ・グループは、引き続き2026年も目標利益率を7%としています。しかし世界的な激変と、とりわけアジア諸国との競争激化を考慮すれば、ハルトゥングは、これが極めて困難な課題であると見ています。「私たちは、今後もコストおよび構造改革に集中的に取り組み、収益性の高い事業分野に注力します」。ボッシュはすでに競争力の強化に向けてさまざまな分野の構造調整および人員削減を発表しています。ボッシュは従業員代表との協議を続け、早急に合意を得て実施プロセスを開始できるよう働きかけています。

「そうすることで、突発的な事象も含め、変化の多い市場環境の中でチャンスを活かすことができるのです。遅延は競争力のさらなる低下につながりかねず、私たちにはもはや一刻の猶予ありません。」ボッシュ・グループの従業員数については、全世界で、特にドイツと欧州において減少が続くと予測しています。

技術革新を後押し：スタートアップ企業向けに2億5,000万ユーロの投資

ボッシュは自社の強みを活かして、市場とテクノロジーの変革期を乗り切ります。「ボッシュは、グローバル規模のテクノロジーリーダーとして、優れた革新性を始めとした自社の強みを大胆に発揮することに全力を注ぎます。たとえ不利な環境であっても、このことが将来的に多くのチャンスをもたらすことになるでしょう」と、ハルトゥングは説明しました。Clarivateの調査によると、ボッシュは昨年だけで6,700件以上の特許を登録し、世界で最も革新的な企業100社に挙げられています。ボッシュはまた、スタートアップ企業との協働が成長に向けた大きな刺激になると考えています。ボッシュ・グループは、欧州最大級のベンチャーキャピタル投資会社のひとつであるボッシュの子会社 Bosch Ventures が、ベンチャーキャピタル向けに約2億5,000万ユーロのファンドを新設すると発表しました。ハルトゥングは、ベンチャーキャピタルに対する継続的な強いコミットメントについて次のように説明しました。「ひとつには、スタートアップ企業への投資が事業および社会全体の技術革新を促進すること、もうひとつには、協業することでボッシュの事業部にもメリットをもたらすことが挙げられます。技術革新は、国の経済的成長の重要な原動力でもあります。」

持続可能性：世界経済の混乱においても、新たなCO₂削減目標を設定

私たちは産業界と同様、政治においても世界秩序の崩壊を目の当たりにしています。「私たちは現在、事業環境の激変を経験しており、世界経済においては自由貿易が大きな圧力にさらされています」とハルトゥングは述べました。ドイツ国内での新政権発足を踏まえハルトゥングは、新たな借金により、可能な限り貯蓄に努める義務から誰も解放されるわけではないとも強調しています。「数十億ユーロ規模の財政措置パッケージは、特に計画された改革に投資されるべきです」と述べました。またボッシュ・グループは、新たなスコープ3ターゲットを発表することで、世界情勢が不安定な中でもクライメートアクションから目を背けてはならないという強い信念を強調しました。2030年までには、例えば製品使用時における排出など、ボッシュの直接的な影響範囲外での二酸化炭素排出量をさらに削減することを目指す、とハルトゥングは説明しました。また成長目標とは関係なく、それまでにはCO₂削減目標を2018年比で15%から30%に

倍増したいと考えています¹。「世界経済が他に現在対処すべき課題を抱えているからと言って、気候変動がなくなるわけではありません。持続可能性はボッシュにとって変わらず優先事項です」と、ハルトゥングは指摘します。

2025 年度：不確実性を伴う中でも存在する成長機会

世界貿易における不安定な動向を踏まえると、ボッシュは、今年の展望は不確実性に満ちていると考えています。追加関税や欧州およびドイツのインフラ投資による経済的な影響も判断を難しくしています。ボッシュは、今年の世界経済の成長は 2.25% から 2.75% 程度の緩やかなものになると予測しています。「私たちはコスト競争力を維持するためにさらに努力する必要があります、投資、革新技術、企業買収によって成長戦略を推進していきます」と、ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会メンバー兼財務担当取締役の[マルクス・フォーシュナー](#)は述べました。「私たちは、成功を収めている地域戦略をさらに拡大していきます。お客様のそばにすることは、今もそしてこれからも私たちにとって重要です」。主要市場の低迷により厳しい事業環境は続きますが、ボッシュは今年、既存事業の売上高成長率 1~3% を目指しています。将来の重要なテクノロジーへの高額な先行投資および構造調整が再び収益に影響を及ぼすことが予測されるものの、支払金利前税引前利益率は 2024 年と比べて大幅に改善する見込みです。フォーシュナーによると、ジョンソンコントロールズと日立事業の一部買収が今年半ばまでに完了すれば、2025 年の総売上高はさらに 1~2 ポイント増加する見込みです。また最初の完全連結は 2026 年度中に実施される予定です。

モビリティ：ソフトウェアと水素の革新技術

ボッシュは、モビリティ事業セクターにおいて、e モビリティ、水素、ソフトウェア・ディファインド・ビークルの開発が成長の大きな刺激になると予測しています。「モビリティの将来はソフトウェアによって決まるでしょう。私たちは自動車メーカーのパートナーとして、その最前線に立ち続けたいと考えています」とハルトゥングは述べました。ボッシュは最近、上海モーターショーで、エントリー、ミッドレンジ、プレミアムセグメントの 3 つの運転支援モジュラーシステムと AI 機能を搭載したコックピット ビークル コンピューターを発表しました。e モビリティの分野では、ボッシュは今年、欧州および中国を中心にさらに 50 件のプロジェクトを生産段階に移行します。「未来の重要なテクノロジーのひとつが[水素エンジン](#)です」とハルトゥングは言います。「このパワートレインは CO₂ を排出せず、特に大型のオフハイウェイトラックやパワフルな建設機械、農業機械に適しています」。ボッシュは、ハノーバー・メッセで水電解装置の中核である水電解スタック [Hybrion](#) を初公開しました。ボッシュは 2030 年までに、この水素分野の売上高が数十億ユーロになると見込んでいます。

消費財：利便性を高めるネットワーク化とバッテリー

ボッシュは、経済情勢が低迷する中、新たな顧客ニーズが消費財事業に重要な成長機会をもたらすと予測しています。電動工具では、コードレス工具のラインナップ拡充に力を注いでいます。電気工事士などのプロフェッショナル向けに

は、[コードレス油圧工具](#)といった製品も含まれています。ハルトウングは「ボッシュは 2024 年、すでに製品投入数を大幅に増やしています。今年も電動工具のラインナップの拡充をさらに加速させ、約 90 にもおよぶ新製品を発売する計画です」と述べています。さらにボッシュはさまざまな取り組みの一環として、家電製品における新しい接続規格「Matter」を積極的に導入します。今年 BSH Hausgeräte は、初の [Matter 対応家電製品](#)となる冷凍冷蔵庫を発売します。これにより、迅速、容易かつ安全にメーカーの垣根を超えたネットワーク化が可能になります。また「地域ごとの需要に応えるため、ボッシュはアフリカ大陸で初となる家電製品工場の稼働開始したところです」とハルトウングは説明しました。ボッシュはアフリカおよび中東のお客様向けに、このエジプトの新[工場](#)で年間最大 35 万台のオープンレンジを生産する予定です。

産業機器テクノロジー：製造業向けにソフトウェアの推進

産業機器テクノロジー事業セクターでは受注量の安定化が見込まれることから、[ソフトウェア](#)およびソフトウェアを活用したサービスだけで、2030 年初めまでに約 10 億ユーロの売上高を目標に掲げています。この目標に向けた一歩が、Hydraulic Hub などの包括的な[デジタルサービス](#)です。産業用油圧機器のサービスとメンテナンスを簡素化かつ迅速化し、機械の稼働率向上を図ります。「私たちは、産業機器テクノロジーの分野においてもソフトウェアを推進しています。ユーザーからユーザーへ販売し、自らの製造経験を取り入れることで、お客様に提供できるメリットがあります」とハルトウングは述べています。さらに、バッテリーや半導体、消費財の生産といった成長分野におけるファクトリーオートメーションは、今後さらに注目されると見込んでいます。ボッシュ・レックスロスは最近ハノーバー・メッセで、産業用やモバイル用アプリケーションにおける電動化など、エネルギー転換に関する多くの革新技术を発表しました。

エネルギー・ビルディングテクノロジー：HVAC 事業の拡大

エネルギー・ビルディングテクノロジー事業セクターにおいては、[ジョンソン・コントロールズと日立](#)の HVAC（暖房・換気・空調）事業の買収が予定されており、これによる大きな成長が見込まれます。今年半ばにも完了するこの買収について、ハルトウングは「ボッシュは、暖房および空調技術の世界的リーダーの一員でありたいと考えています」と述べ、「特に北米およびインドにおいて、買収による力強い成長が期待されます」と加えました。ISH 産業見本市でボッシュが初めて発表した新しいハイブリッドヒートポンプシステム（オールインワン暖房）も、成長を促進すると見込まれています。これは、ガスまたは石油凝縮ボイラーとして個別に運転することも、または屋外のヒートポンプユニットと組み合わせ使用することもできます。さらに、電気のみで動作するよう転換することも可能です。ビルディングテクノロジーでは、インテグレーター事業に注力してきたことが実を結びつつあり、先行する買収がオートメーション事業の強化につながっています。これらすべての分野で成長のための重要なカギとなるのが、AI の活用です。たとえば、[山火事検知](#)ソリューションは森林火災の早期発見を可能

にします。ガスセンサーが煙を検知し、AI アルゴリズムを利用して救急サービスに通報、ドローンで収集された情報の提供も行うことができます。

2024 年度：将来に向けた大規模な投資および健全なキャッシュフローの確保

2024 年、ボッシュのフリーキャッシュフローは、9 億ユーロの黒字となりました（2023 年：22 億ユーロ）。そして、支払金利前税引前利益の減少にもかかわらず、売上高は目標の 1% を達成しました。「ボッシュ・グループは、保守的な財務方針の下、財務の柔軟性を確保することで、大規模な買収や多額の投資を可能にしています」とフォーシュナーは述べました。ボッシュ・グループは、技術革新のリーダーシップを強化するために、過去 5 年間だけでも将来的に重要な分野に総額約 570 億ユーロを投資してきました。2024 年の研究開発費は 78 億ユーロ（2023 年：73 億ユーロ）で、研究開発比率は 8.6%（2023 年：8.0%）と高水準を維持しています。資本的支出は前年比では微減の 51 億ユーロ（2023 年：55 億ユーロ）でした。連結決算の対象となるキャッシュフロー計算書に基づく流動資産は 82 億ユーロ（2023 年：74 億ユーロ）、自己資本比率 44.3%（2023 年：44.2%）と、ボッシュの財務の健全性を裏付けています。

2024 年度：事業セクター別の業績

主要市場の低迷による影響はすべての事業セクターに及びました。世界的な自動車生産台数の減少を受け、**モビリティ**事業セクターの売上高は 558 億ユーロとなりました。前年を 0.7% 下回りましたが、為替調整後では 0.2% の増収となり、支払金利前税引前利益率は 3.8%（2023 年：4.4%）でした。**産業機器テクノロジー**事業セクターでは、売上高が 64 億ユーロでした。これは 13.0%（為替調整後：12.5%）減となります。主な要因は欧州、北米、中国の主要市場における建設・機械部門の予想以上の落ち込みで、支払金利前税引前利益率は 1.2%（2023 年：9.1%）となりました。**消費財**事業セクターの売上高は 1.6% 増（為替調整後：2.9% 増）の 203 億ユーロとなり、支払金利前税引前利益率は 3.5%（2023 年：4.5%）でした。**エネルギー・ビルディングテクノロジー**事業セクターの売上高は前年比で 2.7% 減（為替調整後：2.6% 減）の 75 億ユーロでした。主な要因は、欧州の暖房事業の市場低迷で、支払金利前税引前利益率は 4.9%（2023 年：9.0%）でした。

2024 年度：地域別の業績

ボッシュが主要市場の低迷を最も痛感したのは**欧州**です。同地域の売上高は 4.9% 減（為替調整後：4.6% 減）の 445 億ユーロであったのに比べ、世界の他の地域では拡大しています。**北中南米地域**が 4.8% 増（為替調整後：5.7% 増）の 178 億ユーロ、**アジア太平洋地域**は 0.7% 増（為替調整後：2.8% 増）の 280 億ユーロとなっています。

2024 年度：従業員数の推移

2024 年末現在のボッシュ・グループの従業員数は全世界で 41 万 7,859 人（2023 年：42 万 9,416 人）、全体の従業員数は前年を 1 万 1,557 人下回る 2.7%減でした。

¹ ボッシュ・グループは 2020 年以降、全世界 450 超の拠点をカーボンニュートラルを達成しています（[GHG プロトコル事業者排出量算定報告基準](#) スコープ 1 & 2）。ボッシュでは、エネルギー効率の向上、再生可能エネルギーの自家発電の拡大、再生可能エネルギー電力の調達、そして CO₂ 残余排出量をカーボンクレジットの購入によりオフセットするという 4 つの施策により、カーボンニュートラルを達成しています。ボッシュ・グループのサステナビリティ戦略の詳細については、sustainability.bosch.com をご覧ください。

報道用画像およびインフォチャートは、ボッシュ・メディア・サービス
www.bosch-press.com でご覧いただけます。

報道関係対応窓口

コーポレート・事業・財務関連：

Sven Kahn、E-Mail：Sven.Kahn@de.bosch.com

電話：+49 711 811 6415

持続可能なモビリティ：

Jörn Ebberg、E-Mail：joern.ebberg@de.bosch.com

電話：+49 711 811 26223

エネルギー・ビルディングテクノロジー：

Matthias Jekosch、E-Mail：Matthias.Jekosch@de.bosch.com

電話：+49 711 811 17645

産業機器テクノロジー

Manuela Kaiser、E-Mail：Manuela.Kaiser@de.bosch.com

電話：+49 711 811 44203

人事・社会福祉：

Kristina Müller-Poschmann、e-mail：[Kristina.Mueller-](mailto:Kristina.Mueller-Poschmann@de.bosch.com)

Poschmann@de.bosch.com

Phone: +49 711 811 52988

世界のボッシュ・グループ概要

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2024 年の従業員数は約 41 万 8,000 人（2024 年 12 月 31 日現在）、売上高は 903 億ユーロ（約 14.8 兆円*）を計上しています。ボッシュはモビリティ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・ビルディングテクノロジーの 4 つの事業領域を展開しています。事業を通じて、自動化、電動化、デジタル化、ネットワーク化、持続可能性の取り組みといった普遍的なトレンド形成に、自社のテクノロジーを活用することを目指しています。こうした観点から、ボッシュは地域や業界の壁を超えた幅広い事業展開により、革新性と堅牢性を高めています。ボッシュはセンサー技術、ソフトウェア、サービスにおける実績ある専門知識を活かし、さまざまな分野にまたがるソリューションをワンストップでお客様に提供しています。また、ネットワーク化と AI に関する専門知識を応用して、ユー

ザーフrendリーで持続可能な製品を開発・製造しています。ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」なテクノロジーによって、人々の生活の質の向上と天然資源の保護に貢献したいと考えています。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社 490 社、世界約 60 カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売／サービスパートナーを含むグローバルな製造・エンジニアリング・販売ネットワークは世界中のほぼすべての国々を網羅しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界 136 の拠点で約 8 万 7,000 人の従業員が研究開発に携わっています。

ボッシュの起源は、1886 年にロバート・ボッシュ（1861～1942 年）がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbH の独自の株主構造は、ボッシュ・グループの企業としての自立性を保証するものであり、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbH の株式資本の 94% は、慈善目的のロバート・ボッシュ財団が保有しており、残りの株式はロバート・ボッシュ GmbH および創業家であるボッシュ家が所有する法人が保有しています。議決権の大半はロバート・ボッシュ工業信託合資会社が保有し、株主の事業機能を担っています。

*2024 年の為替平均レート、1 ユーロ = 163.8354 円で計算

さらに詳しい情報は 以下を参照してください。

www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト（英語）

www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス（英語）

[@BoschPress](#) ボッシュ・メディア 公式 X（ドイツ語）

www.bosch.co.jp/ ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト（日本語）

[@BoschJapan](#) ボッシュ・ジャパン 公式 X（日本語）

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック（日本語）

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式 YouTube（日本語）

<https://www.linkedin.com/company/bosch-japan/> ボッシュ・ジャパン 公式 LinkedIn（日本語）